

Wake me up!!

EAST JAPAN RAILWAY WORKER'S UNION YOUTH CHIBA

2019年11月11日No.2
JR東労組千葉地本青年部
発行者：鈴木 大貴
編集者：教 宣 部

尼崎JR脱線の事故車両 7両全てを研修施設で保存 安全教育に活用へ

神戸新聞NEXT 11月9日配信



乗客106人が亡くなった2005年の尼崎JR脱線事故で、JR西日本は事故車両7両全てを大阪府吹田市の社員研修施設を拡張して保存し、安全教育に活用する案をまとめた。16、17日に兵庫県伊丹市内で開く遺族らを対象にした説明会で提案し、意見を聞きながら、最終的な在り方を検討していく。保存先として提案するのは、JR西が07年に安全教育のために整備した「鉄道安全考動館」。尼崎事故のほか、1991年の信楽高原鉄道事故など過去の事例から教訓を学ぶ場で、一般公開はしていない。

JR西は、事故車両の保存先や一般公開の是非などについて、今年7月から遺族らに聞き取りをし、意見を踏まえて案をまとめた。遺族の中には事故現場での保存や公開を望む声もあり、決定までには時間がかかることも想定される。

事故現場は、18年に追悼施設「祈りの杜」として整備され、車両が衝突したマンションを部分保存するほか、慰霊碑や事故に関する資料などを展示。マンションの全部保存や全部撤去など遺族らの意見は分かれ、方針決定までには約3年を要した。施設は一般公開しており、JR西の社員研修もほぼ毎日行われている。

今年4月25日には、同施設を会場に事故現場で初めてとなる追悼慰霊式を開催。事故車両の保存の在り方について、来島達夫社長は「次の課題として、遺族らと話をしていきたい」としていた。

**事故の事は思い出したくない…
しかし、事故を風化させてはならない!
安心・安全に利用出来る鉄道を
東労組として創り上げよう!**